

# 看護学研究科 看護学専攻

## 1 アドミッションポリシー

入学にあたり、本研究科での教育を受けるにふさわしい、次の様な能力と適性を備えた人材を総合的に判断する。

- (1) 看護学発展の一翼を担う自覚を持ち、主体的、自律的に学問的探究に努力する。
- (2) 援助の対象者を思いやり尊厳ある個人として、全人的に理解できる。
- (3) 様々な現象を、科学的根拠に基づき論理的に考えることができる。
- (4) 学際的な幅広い論点から、知識や理論を活用できる。
- (5) グローバルな視点を持ち、文化・宗教、人種、政治を超えた実践ができる。
- (6) 高い臨床能力、多職種との協働・連携を促進するマネジメント能力を持つ。

## 2 カリキュラムポリシー

本研究科は、看護実践の研究的検証を通して、実践の科学である看護学のさらなる発展に寄与できる次のような看護実践者、教育、研究者の育成を目指す。

- (1) 仏教精神に基づく人間観、死生観を深く理解し行動の指標にできる看護者
- (2) グローバルで多様な社会において学際的視点で柔軟に思考、行動できる看護者
- (3) 高度な専門知識、技術を有し、的確な判断力、研究資質を備えた看護実践者
- (4) チーム医療や地域連携ケアの中で、マネジメント機能を果たし得る看護者

これらの教育目標を達成するために、教育課程を2つの分野に区分し目指す人材育成に寄与する教育科目を設定した。第一は、医療施設を主とした臨床における療養看護は、研究ニーズの高い重要なフィールドであると認識し設定した「臨床療養看護学分野」である。第2は、加速する少子高齢社会を見据えた保健・医療・福祉施策が、地域、在宅をベースにした連携・協働的ケアに大きくシフトしている動向を背景に、そうした研究を支援する分野としての「地域療養看護学分野」である。両分野において新たな知見を得、研究遂行に必要な以下の科目を設置した。

### (1) 共通科目

仏教精神の理解をはじめ、今日の社会や人々に関する多様で幅広い知識や現象の理解、思考や判断力の基礎となる12科目を編成する。

### (2) 専門科目

#### ①臨床療養看護学分野

看護サービスやケアのマネジメント、看護実践の改善、新たな看護援助の創造、開発など実践、研究、理論の循環を駆動させる研究を支援する母子看護、成人看護、精神看護、基礎看護に関連する7科目で構成する。

## ②地域療養看護学分野

高齢者、認知症患者、慢性疾患患者、小児など個人や集団を対象にした多様なニーズを持つ対象に対する課題を研究する老年看護、公衆衛生看護、基礎看護に関連する専門科目6科目で構成する。

## ③分野別演習

各分野の教員が個々の学生指導に関わる分野単位の演習体制を取り入れ、研究科全体が研究指導に参画し、研究及び論文作成に至る教育の組織的強化を図る。

## ④特別研究

主、副指導教官の個別指導による的確で計画的な研究遂行及び修士論文の作成を目指す。

修了に必要な要件は、共通科目、専門科目計32単位以上を修得し、修士論文審査に合格することである。

修士論文の指導・評価及び審査の主な視点は次の点に置く。

- (1) 研究課題、研究枠組みの妥当性
- (2) 研究方法の妥当性
- (3) データ収集、分析の正確性、信頼性
- (4) プレゼンテーションの適切性
- (5) 研究における倫理的配慮、手続き
- (6) 研究の独創性、結果の有効性、今後の課題
- (7) 研究結果の看護学、看護実践への発展と貢献

## 3 ディプロマポリシー

修士課程終了時点で、学修・研究を発展させ得る次の人材を育成する。

- (1) 仏教の精神に基づき、人間の理解と援助者としての在り方を深く洞察し、誠意と謙虚な精神で行動できる看護実践者、教育・研究者である。
- (2) 看護実践の研究的検証を通して、看護学のさらなる発展に寄与できる看護実践者である。
- (3) グローバルかつ学際的視点から研究的、創造的に看護の探究、エビデンスに基づいた援助技術の開発に参加できる。